

# きずな

No.18

令和3年  
3月発行

## 【目次】

- 芦屋町国際交流協会（芦屋町）…………… 1・2
- 川崎ボランティアサークル「はすの会」（川崎町）…………… 3・4
- 県庁お知らせ掲示板 …………… 4

### ■ 芦屋町国際交流協会（芦屋町）

## 外国人との交流の「かけはし」に

### ～芦屋町国際交流協会（芦屋町）～

福岡県の北部に位置する芦屋町は、東を北九州市に接し、響灘を望む遠賀川の河口に広がる町です。多くの観光客を集め、北九州都市圏の海洋レジャータウンとなっています。

今回は、「芦屋町国際交流協会」の外国人との文化交流活動について、会長の田中美佐子さんからお話を伺いました。



芦屋町国際交流協会 会長 田中 美佐子さん

「芦屋町国際交流協会」は平成3年に設立されました。設立のきっかけは、芦屋町の各スポーツ少年団から、韓国との交流を行いたいとの声が集ったことです。設立当初は海外との円滑な交流を図ることを目的に活動していました。

現在は、芦屋町や近隣市町に在住している外国人との交流機会の提供が主な活動です。

役員体制は会長1名・副会長2名・会計1名・書記2名・理事4名の計10名であり、会員数は100名ほどです。

### 歴史・文化を巡る

「芦屋町国際交流協会」が実施する外国人との交流事業の1つに「文化交流研修」があります。福岡県内や近隣県の歴史的建造物や文化遺産などを巡る日帰りバスツアーを企画し、外国人と一緒に各地を巡っています。

道中のバス内では参加者が積極的に交流を図り、楽しいひと時を過ごしています。





文化交流研修での風景

### パーティーを通して外国人と交流を深める

「芦屋町国際交流協会」が行っている事業の中で最も大規模なイベントが「国際交流パーティー」です。JICA九州の研究員や北九州市立大学の留学生、芦屋町やその近隣在住の外国人を招待し、会員や地域の方々と外国人が楽しく交流します。舞台上では各種団体のアトラクションが催され、会場は大いに盛り上がります。最後に参加者一同で踊る炭坑節はアンコールが鳴り止まない人気ぶりです。



国際交流パーティーの様子

### 母国の家庭料理を学ぶ

外国の食文化に触れる機会として、毎年「料理教室」を実施しています。近隣在住の外国人を講師に招き、母国の料理を教えてもらっています。「芦屋町食生活改善推進会」が調理の補助をしてくださるため、初心者も安心です。「料理教室」は、本場の家庭料理が味わえると大変好評です。



料理教室の様子



フィジーの家庭料理に舌鼓

### 今後の活動について

「芦屋町国際交流協会」の事業は、基本的に役員が企画から運営までの全てを担っていますが、「国際交流パーティー」は準備や片付け等の人員が不足するため、航空自衛隊芦屋基地の隊員にボランティアで協力してもらっています。「近年は役員の高齢化も進み、さらに事業運営が難しくなっていくのでは」と田中さんは不安を募らせながらも、「国際化が進む世の中であるから、より外国人との交流を図っていきたい」と今後の活動への意欲を語ってくれました。



# 一人でも多くの人に「福祉の心」を育む

～川崎ボランティアサークル「はすの会」(川崎町)～

川崎町は、田川郡の南西部に位置し、農業、自然を生かした観光振興や、すべての人にやさしい福祉のまちづくりを進めています。

今回は、川崎ボランティアサークル「はすの会」の地域福祉活動と環境保全活動について会長の中島利男さんからお話を伺いました。



川崎ボランティアサークル「はすの会」 会長 中島 利男さん

「はすの会」は、地域のボランティアやリーダーが育たず、地域福祉活動が低迷していた川崎町を元気にしようと、数名の有志が発起人会を設置し、同会の呼びかけに応じた20～70代の賛同者によって、昭和59年に設立されました。

川崎町と町に関わる地域のボランティア活動を推進し、福祉への関心を高め、一人でも多くの人に「福祉の心」を育んでもらうことを目的として活動しています。

役員体制は会長1名・副会長2名・会計1名・監査1名の計5名であり、会員数は14名ほどです。

## 中元寺川「鮎返り」の再生・保全

鮎返り河川敷は1級河川遠賀川水系の中元寺川おうげつぐんにあり、文化的にも価値の高い数多くの**甌穴群**(注1)がある景勝地ですが、経年により、岩場に土砂が堆積して景観を損ねていました。そこで、平成26年度に**エフコープ環境助成金**(注2)の助成を受け、「鮎返り河川敷の再生事業」を実施しました。

「はすの会」では、「自然環境にやさしい地域づくりを進め、将来に引き継いでいくためには、行政任せにするのではなく、住民が主体となって美しい川の保全に取り組むことが重要」と考え、住民・団体に、この再生事業への参加を呼びかけました。その結果、多くの住民・団体がボランティアで岩場の土砂を撤去し、昔の景観を取り戻すことができました。

河川敷の保全活動にも力を入れており、平成23年度から年1回「鮎返りクリーン大作戦」を行っています。町内のボランティア団体や行政区など約20団体の協力を得て、清掃活動を実施しています。

(注1) 甌穴群

河底や河岸の岩盤のくぼみに石が入り込むと、石が回転し、丸みを帯びた円形の穴ができる。その後、川底が浸食等で低くなると地表に見られるようになる。これを甌穴という。

(注2) エフコープ環境助成金

平成18年度からエフコープが取り組んでいる、回収したカタログや牛乳パックなどのリサイクル収益の一部を地域の環境活動へ還元する助成事業。



鮎返り河川敷の再生事業の様子



鮎返りクリーン大作戦の風景

## 鮎返りで魚とり&川遊び

キレイに整備した鮎返りでは、毎年夏休みの後半に川遊び体験を行っています。「水辺に近づくことができこそ川の魅力がある」と話す中島さん。子ども達や家族が魚とりを通じて環境学習をし、環境保全について考える機会を提供しています。



鮎返りでの魚とりの様子



## 使用済切手収集活動

「はすの会」では、「いつでも、どこでも、だれにでもできるボランティア」として使用済切手の収集活動を行っています。町内各所に「愛の収集箱」を設置し、随時収集中です。集まった切手は「日本キリスト教海外医療協力会」に送付後、換金され、医師や看護師などの途上国への派遣費用や、ネパール・ウガンダなどの医学系学生への奨学金支給などに活用されています。



切手集計作業の様子  
端が切れた切手などを取り除き、集計しています

## 福祉を進める取組

川崎町では、「老人保健福祉計画」「障害者プラン」「子どもプラン」が策定され、すべての町民が生き生きとした毎日を過ごすことができる町にするため、プランの実現が期待されています。「はすの会」をはじめとした多数の福祉団体やボランティアにより、「川崎町の福祉を

みんなで考えながら、町の福祉プランの実現に向けた取組や、福祉のまちづくりを進めていくこと」を目的として「福祉を進めるみんなの会」を発足し、町内公共施設のバリアフリー調査や、川崎町役場新庁舎建設に伴う町行政との意見交換会などに取り組みました。



バリアフリー調査の様子  
車いすで段差を越えられるか確認しています

## 活動への思い

「主人公は自分たちの団体ではなく、あくまでも町民のみなさんや各種団体の方々であり、一人でも多くの人に関わってもらい、福祉の心を育てていきたい」と、中島さんは活動への思いを語ってくれました。

かつては、川崎町のみならず田川地区のまちづくりにも参画し、多忙によって町内の活動に支障が出てきた時期があったものの、それも乗り越えてきた「はすの会」は、「継続は力なり」をモットーに、これまで培った熟練の精神のもと、慌てず楽しく活動を続けます。

# 県庁お知らせ掲示板

## 防災士になって活躍しませんか

県では、自主防災組織の活動に参加するリーダーを防災士として養成するため、令和2年度から県内4ブロックで「福岡県防災士養成研修・試験」を実施しています。

今年度は令和2年11月から12月にかけて300人を超える方が受講されました。

令和3年度も本研修・試験を実施する予定です。これを機会に皆さんも防災士になって、地域の安全・安心の向上を目指しませんか!

お問合せ

消防防災指導課 TEL.092-643-3113

## 防犯活動を始める団体に補助します

地域の皆さんが子どもの見守りや「ながら防犯」に取り組むために必要な経費の一部を補助します。(既に防犯活動を行っている団体が、その活動を拡充させる場合にも支給の対象となることがあります)

### ▶対象の団体

自治会、PTA、ボランティア団体など

### ▶対象の経費

帽子、ジャンパー、のぼり旗等防犯活動用品の購入費など

### ▶補助金の額

1団体あたり10万円を上限

お問合せ

生活安全課 TEL.092-643-3124